

# 「復興と鎮魂」を祈る 仙台七夕まつり開催

今年も仙台七夕まつりが8月6日から8日までの3日間開催されました。未曾有の大震災に見舞われた今年の七夕まつりのテーマは「復興と鎮魂」。星に願いを託す七夕の原点に立ち返り、全国からの支援をいただき、全市をあげて仙台・宮城・東北全体の復興を願いました。



商工会議所女性会が仙台市内4力所の避難所の方々と祈りを込めて作り上げた笹飾り3竿が中心部商店街に掲出された。



▶ 仙台市内の小中学校全児童生徒による折鶴8万羽と教職員・保護者で作るくす玉・吹流しによる笹飾り。未来を担う生徒たちの復興への思いが多くの方に届けられた。



多くの飾りに復興と鎮魂、さらには全国からの支援に対する「ありがとう」の気持ちが込められた。



七夕飾りに加えて、鎮魂の思いをこめた「七夕線香」が多く飾られた。写真は商店街として掲出を奨励した宮町商店街振興組合。



手作り感にあふれ、伝統や色彩感などさまざまな工夫がみられ第1地区A金賞を受賞した一番町四丁目商店街振興組合。



恒例の仕掛け物は「仙台七夕 縁起七福神とみやぎの海の物語」をテーマとした、震災からの復興を目指す【みやぎの物産たち】を描いた人形ミュージカルが繰り広げられた。



“がんばろう上杉”の統一プレート掲げ、地域ぐるみで力をあわせた見事な七夕アーチで第2地区金賞受賞の上杉中央商店会。

第5地区金賞の根白石商店会では、鉢植えミニ七夕飾りを商店会・子供会・老人会など地域ぐるみで独特の七夕世界観を醸し出していた。



第四地区金賞の荒町商店街振興組合。昔懐かしい仙台七夕まつりの雰囲気商店街全体に広がる。



素朴でありながら、「もうひと手間」という熱意にあふれた飾りが続く第3地区金賞の原町本通商工親睦会。

創意工夫あふれる力作が次々に現れる濃密感のある飾りで第1地区B金賞の名掛丁商店街振興組合。





## ～祈りの広場～

定禅寺通「祈りの広場」には、海外14カ国のほか日本各地から届いた短冊、折鶴が飾られた。鹿児島県始良市からは長さ23メートルの孟宗竹がお目見え。1つ1つのメッセージに真剣に見入るお客さんで終日にぎわった。



つなぎ横丁には京都市から門外不出の綾傘鉾が展示され、祇園まつり囃子が披露された。



福岡市からは、博多どんたく「どんたく隊」が応援に駆けつけた。福岡商工会議所河部会頭(右から2人目)から鎌田会長へ大しゃもじが贈呈された。

全国からの応援



観光案内所では延べ200名を超える常盤木学園高等学校、聖ウルスラ学院英知高等学校の生徒がおもてなし。



記念撮影スポットとして定着してきた「歓迎ボード」前では東北学院大学4-LEAVESが記念撮影のお手伝い。

ボランティアの協力

## ～仙台七夕おまつり広場～

勾当台公園市民広場には「仙台七夕おまつり広場」を今年も展開し、七つ飾りを中心とした仙台七夕の手作り体験や、願い短冊書きコーナー、ステージイベントを実施。

夜にはLED イルミネーションと竹のキャンドルがともる“夢と願いの天の川”が七夕の夜を彩った。



第42回仙台七夕花火祭(公益社団法人仙台青年会議所主催)。「絆 笑顔の輪を未来へ」をテーマに、復興を願う約1万6000発の花火が打ち上げられた。



本殿のライトアップや竹灯籠で幻想的な演出が施された「瑞鳳殿七夕ナイト」。

～関連イベント～



荒町商店街振興組合では昌伝庵で「七夕うち水コンサート」を開催。写真は仙台フィルのメンバーによる弦楽四重奏。



古民家を利用したイベントや音楽祭で七夕まつりを盛り上げた原町東部商工会。